

No. 26

JUNE

1951

この六月二十一日、我等は第四回創立記念日を迎える。終戦直後の退散した世相を發揮として発足しながらも、京下の教育家のみならず、一般有識者をして、如く連合せしめている本校の健かな成績ぶりは既に時代の一潮流と云わねばならぬ。長電航船題の一角に清楚な表しきついた校舎は、まさしくこの朝霧に浮れなあ信急の景致をたゞよわせ、そのほる陽爻にためんな光学的の美魄を吐き、またの見る人龜に惜しみなく藝術の影をえで、海を臨んで、望見する者の心に、さながら故質の海賊船としてしみわらうとするのである。高遠なる

我等の決意

学業会は第一部と第二部とに分れ、第一部は九時から中学二年生及び父兄その他一般来場者の方のため、第二部は三時から中学三年、高校生及び父兄、その他の一般来場者の方のために行われた。それに伴つて隣りの本音館では、中古洋書のバーゲン、高等学校日々含めて、宋元、編集部主催で培養講習会、生物研究部、新開部等による色彩展が開かれた。

第一部は八時、二年生組、君の唄の会の辞より始まり、プロカラム、これり、合唱團「英語」生徒一同、合唱團員による合唱団「アグエマリナ」、アルカナテルト曲「歌姫

語「四番目のコンテスト」は、初めが中学一年の数学の強手で審査員は内田先生、山根先生、森崎の結果、一時はD組の君、二時はA組の君、三位はC組の君となりました。次の中学二年のスクリンコンテストは、いろいろな難問にも頑張りましたが、遂に三君が引分けとなり、二位はB組の君、C組の君、D組の君となりました。その審査員は松長、鈴木、向井先生で、この後、寸劇・マンツワーラーとリ体験に入りましたが、寸劇の第一話ではないが、し先にさくをあつたのに本校の先生方の頭も光る

にむかひおどりはじめたものだった。

休憩の後、芸能劇「ジニアズ・シーサー」高二年生、海上劇部員による劇「五毛城」（ヒノコアシ）の熱演には観客も拍手を挙げなかつた。続いて校長先生のお話をあけ、校歌（日本版）を唱い、三年級君の開会の辞で第一部が終つた。

第二部は子供より遅れて二時十五分開始。

高一、二年の両会の辞、それより第一部と同様校歌合唱を終り、番組の二部曲トピストになつた、これは十五日（金）に高校各々会三階廊下跡室に於て行われた予選を見

說·反·想

A black and white photograph showing a group of men in Western-style clothing standing in front of a building with a porch. Some men are wearing hats. The scene appears to be from a historical reenactment or a film set.

劇「ピノッキオ」の上演場所は、東京・横濱・名古屋の三都市で、各公演が大成功を収めました。特に熊野先生の軽妙な解説と、児童歌舞の妙技ぶり、また、舞台上の巧みな動きは、観客の心をくすぐりました。また、この劇は、子供たちの心を育むための教育的効果も大きいと評されました。

開校記念日の意義

記念日の章

月二十一日  
は定めてない  
回欄記念  
便に深くこ  
めてみよ  
は聖アロイ  
はる晴日で  
五六八年イ  
ゴンサコ家  
ロントル  
いたがた  
だとは知ら  
に事し、心  
恥して、自ら  
る書いたの下  
「わが子が

本校野球部快勝

トも予想外  
劇的シーザー  
劇的して、五  
九年一月二十一日、わざ  
命的な病魔により、か二十三才三ヶ月十一日  
の五年は以て、その生  
命をねらひにゐてゐた。  
から立くな  
れ能もすぐれ  
精神教育によ  
るの止むを禁  
君心の持主、舞遊な  
規則に対して感召せ、織  
往の精神に充満した心の持  
主こそ、本校の生徒の鎌  
田すべき人物のものである  
本校の目的もここにあ  
るのでありて、その目的  
を達しに日本で本校のは  
じめであり、終りなので  
ある。この偉大な人間の  
生涯を記念する六月二十  
一日つと、本校の歴史記  
念日として、原も適当な  
いからそれまで  
かに譲渡の意  
ある。  
本人の特徴で  
いたのであるが、  
五年の夏月二十一日、五  
九年一月二十一日、わざ  
命的な病魔により、か二十三才三ヶ月十一日  
の五年は以て、その生  
命をねらひにゐてゐた。  
から立くな  
れ能もすぐれ  
精神教育によ  
るの止むを禁  
君心の持主、舞遊な  
規則に対して感召せ、織  
往の精神に充満した心の持  
主こそ、本校の生徒の鎌  
田すべき人物のものである  
本校の目的もここにあ  
るのでありて、その目的  
を達しに日本で本校のは  
じめであり、終りなので  
ある。この偉大な人間の  
生涯を記念する六月二十  
一日つと、本校の歴史記  
念日として、原も適当な  
いからそれまで  
かに譲渡の意  
ある。

創立記念日である六月二十一日(本学園の守護聖人である聖ヨハネ・イニシオの祝日)を記念して六月十七日(同上)本学園講堂に於て盛大な学芸会が行われた。

失つてしまふだらうかつ  
やつぱりない方がよいた  
らう、マソットワークは、  
やつぱり熊野先生が腕に

老高二  
君高ニB  
熱井さ聞いておられた  
遙に一位は「高瀬船  
学苑会社  
歌合場

最後に吉田一郎組  
君の研究会の時に  
第四回創立記念  
セミナーを閉じた。  
そのときも吉田一郎  
判もよく、論  
の度がはつきり  
ていた。  
又劇の方で、  
二年後、「二五

が大反立派で  
良いそれもよ  
その鳥小場西  
くとも本当に  
二五六太陽内

悲惨な有様  
「これぞ観  
は自分をほ  
い愛の精神  
れらの使者

であった。  
たアロイジオ  
れて、そのま  
互以つて、こ

